

「2026年 世界と日本の政治と経済はどうなるか」

～ 世界を揺るがせるトランプ大統領を徹底分析 ～

そして物価上昇の日本経済の見通し

2026年1月 (株)エッサム 会長 八鍬 昭
やくわ
あきら

1. トランプの支持基盤、福音派とは

(1) キリスト教に数多くの宗派が存在する理由

(イ)福音とは

(ロ)聖書はユダヤ人のものである、キリスト教の旧約聖書は聖書の借り物です

(ハ)福音書はいつ出来たのか (マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

(二)聖書に疑問が出て信頼が薄れた原因

(A)1438年のペストの流行でヨーロッパ人口の 1/3 が死亡(4,500 万人)

(B)BC4世紀のアリストテレス以来の天動説をくつがえた地動説、
コペルニクスが主張、ガリレオやニュートンが科学的に証明(16世紀)

(C)1859年、ダーウィンの「種の起源」即ち「進化論」によって
「神がこの世を造った、人間を造った」説が否定された

(D)存在するすべてが解明され 「神の創造説」 が否定された

(E)自由、平等、公平、人権、民主主義が少数派を過大評価したことによる
振り戻しが起った (同性婚、妊娠中絶、性道徳など)

(2) 原点回帰、神の創造に戻る思想が勢いを回復、それが福音派の増強を生んだ

- (3) アメリカはプロテスタント、ピューリタンの移民の国、原点回帰によって国民の1/4から1/3が福音派に、1億人になった。トランプ大統領は強力な福音派、これが岩盤支持層に。イスラエルを絶対支持する理由。
-

2. トランプの政権運営法、恫喝外交の中身、毎日言うことが変わる

- (1) 弱い相手は力で抑え込む
(イ)友邦国であっても力で従わせる
-

- (ロ)欲しいものを要求する
カナダのアメリカ合併
グリーンランドの割譲
パナマ運河の割譲
ベネズエラ船への襲撃、沈没
-

- (ハ)強い相手とは戦わない（小心者）
ロシア、中国とは決定的対決はしない（強力な独裁体制国）
-

- (二)日本はトランプとどう付き合うべきか
-

3. 弱肉強食が世界の歴史（現在も）

- (1) 世界で主権国家が誕生して、国境が定められたのは1648年から、それまでは強国が弱い国に攻め入り領土を奪うのが普通の時代だった
-

- (2) 自由、平等、公平、人権、民主主義体制は極めて脆弱
-

- (3) 世界に民主主義が定着したのは戦後の80年
(イ)古代ギリシャの民主主義とは
-

- (ロ)女性参政権が確立したのは100年程度前、世界一遅いスイスは1971年
一番早かったのはニュージーランドの1893年
-

4. イスラエルとパレスチナ、ウクライナとロシアのこれからは

5. 2026年、日本経済の見通し

(1) インフレ 2~3%で日本経済は浮上する

(2) 高市首相の政権運用で経済は上向く

(3) 人手不足、人件費高騰を乗り切る施策

(4) 生産性向上の決め手、人的投資で活性化

(5) 円ドルレートの見通し

(6) 原油価格

(7) 地価

(8) 金利動向

(9) 今年の株式相場

(10) そして今年の日本経済は
